

平成20年度第2回流山市環境審議会会議録

- 1 日時 平成21年3月24日(火)午前10時00分～11時45分
- 2 会場 流山市ケアセンター 4階第1研修室
- 3 出席委員 9名
会長 田代順孝 副会長 梅山香代子
委員 和田まつゑ、新保國弘、松島英雄、畠山 保、高谷史朗、
新美健一郎、矢野光明
- 4 欠席委員 3名
委員 吉田洋子、飯泉修司、町谷肇彦
- 5 傍聴者 1名
- 6 事務局 宇仁菅部長、岡田次長、飯泉課長、橋本補佐、阿部主査、寺門主査、原
- 7 諮問 第2期環境行動計画の策定について
- 8 議題 (1)部会の設置について
(2)市民アンケートについて
- 9 決定事項
(1)流山市環境審議会環境行動計画策定部会設置要領について
第6条(部会に属すべき委員の報酬)については削除し、要領施行日は、平成21年4月1日とすることで承認。
(2)策定部会委員構成について
審議会委員より新保委員、松島委員、高谷委員の3名、特別委員として江戸川大学より吉田教授及び伊藤教授の2名、NPO団体より「温暖化防止ながれやま」の平手氏1名。計6名とすることで承認。
(3)市民アンケートについて
4月末に発送し、5月末から6月初旬までに集計を終わらせること。

各委員より指摘のあった箇所についてできる限り反映・修正を行い、各委員へ送付し、再度確認の上実施すること。

アンケートを実施する目的を明確にし、簡潔でわかりやすく、できるだけ多くの方に回答してもらえよう修正すること。

個人情報の管理を徹底すること。

アンケートの対象となる母集団の数について、統計資料を確認の上、検討すること。

できる限りクロス集計を検討すること。

10 会議概要 別紙のとおり

<開会>

市長挨拶

諮問 流山市第2期環境行動計画の策定について

審議会会長挨拶

配布資料確認

傍聴者1名入室

事務局からの会議成立の報告及び傍聴の許可後、田代会長の議事進行により会議が進められた。

(会長)

それでは、会議に入りますが、ただいま諮問書を受理致しました。

まず、議題1の流山市第2期環境行動計画の策定について、事務局からご説明をお願いします。

(流山市第2期環境行動計画の策定について事務局説明)

(会長)

今、事務局から流山市環境審議会環境行動計画策定部会設置要領(案)について、それに基づく部会の構成員の案についてご説明いただきましたので、ご意見をいただきたいと思えます。最初に確認しておきたいのですが、設置要領は、この審議会で最終的に決めるということによろしいですね。

(事務局)

はい。

(会長)

ということですので、今出されている案について皆様からご意見をいただきまして、決めていきたいと思えます。

先程の説明でありました、要領の6条がカットということになりますと、次の7条、8条が繰り上がって6条、7条となるのですね。それから、要領施行の日付が平成21年4月1日ということ。委員の構成は審議会委員の中から3名、一般から3名という案がございますが、いかが致しましょうか。

(委員)

異議無し。

(会長)

では、要領に関しまして、異議無しということですので、提案通りいきたいと思います。

(事務局)

確認させていただきます。策定部会の委員構成につきましては、案のとおりでよろしいということでしょうか。

(会長)

策定部会と合わせて確認したつもりですが、それでは改めて策定部会の構成についてはいかがでしょうか。

(委員)

異議なし。

(会長)

それでは、策定部会の構成員について、提案のとおりとします。

(事務局)

今回は非常に期間が短く、また、専門的な知識を要する策定部会を設置させていただきました。非常に頻繁に開催することになると思いますし、お忙しい中御協力いただくこととなりますが、宜しくお願ひしたいと思います。

この策定部会で案を練り、それを環境審議会に報告し、そして意見やご提言をいただき、また策定部会にて案を練る、というようにキャッチボールをしながら第2期環境行動計画を策定して参りたいと思いますので、部会委員の皆様、審議会委員の皆様、御協力をお願いしたいと思います。

(会長)

今の説明で一つ確認しておきたいのですが、部会で検討していただいて、それをまた審議会で報告・検討をする。最終的には行動計画自体は審議会で決定し、部会から審議会の方に報告いただくという流れでよろしいですね。

(事務局)

そのとおりでございます。

(会長)

特に部会のメンバーの方々は、大変になってくると思いますが、宜しくお願ひ致します。

では、次のご説明をお願い致します。

(事務局)

では、議題(2)の市民アンケートについてご説明をさせていただきます。

第1期環境行動計画を策定した際にも市民アンケートを実施しております。今回も市民の意見を幅広く計画に反映し、策定していきたいということで、第2期環境行動計画策定に関する市民アンケートを実施したいと考えております。

このアンケート自体は、第1期環境行動計画策定の際に実施した内容を基に作成しております。それは、統計的な意味合いがございますので、設問項目が大幅に違ってしまっは経年的な変化がつかめないだろうということで、第1期環境行動計画策定の際に使用したアンケートでの調査項目を中心に作成しております。そこに新たに緑のカーテン事業に関する設問事項、環境家計簿に関する設問事項、そして今回初めて策定します生物多様性に関する設問事項を追加し、一つのアンケートとさせていただきます。設問内容等につきましてご意見やご提言をいただき、アンケートを作成していきたいと思ひます。

それでは、細かい内容につきましては担当より説明をさせていただきます。よろしくお願ひします。

(市民アンケートについて事務局説明)

(会長)

ありがとうございました。アンケートの内容について詳しく説明をいただきましたが、この内容について、あるいは実際のアンケートの実施に関しましてご意見等ござひますでしょうか。

(委員)

このアンケートの大まかなタイムスケジュールについて、いつ頃実施して集計して、いつ頃第1回目との比較をして、いつ頃結果が出るのか、教えていただけますか。

もう一点、よく無作為に選ばれるということがありますが、差し支えない程度で構ひませんので、どういった形で無作為に選ばれるのか教えていただけますか。

(事務局)

アンケートに関するスケジュールですが、今のところ4月末に発送し、大体半月の期間を設けて回収を行い、前回の結果と比較をしながら集計していく予定です。それらのデータについてできるだけ早期に審議会に報告しなければ、計画に反映していけませんので、遅くとも5月末から6月初旬までには集計まで終わらせたいと思ひております。なぜ4月末にアンケートの発送をするかと言ひますと、4月末にコンサルが決定することになっており、コンサルの業務の中にアンケートの集計等が入っておりますことから、このような

予定になると考えております。

それから、無作為抽出につきましては、行政改革推進課にありますシステムを利用し、無作為で1,000名を抽出します。

(会長)

では、通常市で行っている無作為抽出の方法で1,000名を予定しているのですね。回収率の問題があって、返信用封筒に入れ投函してくださいという回収方法になりますと、訪問回収などに比べ回収率が下がるとは思います。1,000という数字は回収数なのか、発送数なのかどちらですか。また、前回の回収率はどのくらいでしたか。

(事務局)

発送数が1,000です。前回の回収率は39.7%でした。1,000人に対して、397人から返答があったことになります。

(会長)

費用の関係もあるかと思いますが、それはまた別の話で、1,000の発送というのはどうしてですか。

(事務局)

前回も1,000でしたので、同じにするために1,000としました。

(会長)

人口に対して何%にするという案もあるかと思いますが。数については事務局で検討されていると思いますが。

(事務局)

15万人に対して、統計を取るために必要な数値は3,000が妥当なところであるということが、行政改革推進課の見解ですが、費用の面もございますので、1,000名程度に留めていこうと考えています。

(会長)

他にいかがでしょうか。

(委員)

アンケートの3ページにある、お住まいの地域のところで、5地域選択できるようになっていますが、4地域ではないですか。西部はないですね。

もう一つですが、11ページの9)の設問で、「あなたは生物多様性の保全は必要だと考えますか。」とありますが、この質問は必要なかどうか。保全は必要なものなのであり、保全が必要でないという回答をもらう必要はあるのか。

また、1,000名に対するアンケートに関して、お金の問題もあるかと思いますが、例えば私どもの自治会(600世帯程)にアンケートを配れば、おそらく400程は回収できると思います。そうすればそれ程お金も掛からず回収数を増やせる。

それから、6ページの緑のカーテンのことですが、自治会として取り上げて、今年度は60世帯、来年度は100世帯以上ということで盛り上げております。何か皆さんに取り組んでもらえるような市の方策が必要ではないかと思ひます。

(会長)

ありがとうございます。今ご提案があった回収の仕方について、自治会の御協力をいただくという方法なのですが、できるだけ標本数を多くすることは大事なことです。あまりお金にこだわらずに、せっかくシステムがあるのであれば検討していただく必要があると思ひます。郵送となると確かに切手代が掛かってしまひますが、いろいろな方法があるかと思ひますので、事務局で検討をしていただひませんか。

(委員)

今回は前回と比較するためということなので仕方がないのかもしれませんが、費用対効果を考へて、もう少し効率良く回収する方法を考へる必要があると思ひます。せめて半分以上の回収率になるように考へていただひたい。

(会長)

行動計画に反映することが目的ですから、流山市全域からできるだけ多く回収できるような方法を考へていただひければと思ひます。

(副会長)

そもそも、回答していただひた方の個人情報はどうに管理しているのでしょうか。2ページ目を見ますと、返信用封筒には回答者の名前を記入して出されるのですか。

(事務局)

返信用封筒は無記名です。

(副会長)

あて名のご本人によるご記入とはどのような意味ですか。

(事務局)

例えば、Aという方にアンケートをお願いしたらAという方本人が記入してくださいという意味です。

(副会長)

それでしたら問題ないのですが。もし自治会の方をお願いするとなると個人が特定できてしまいますよね。個人情報に配慮して、システムで行っているのですよね。自治会のような組織で行うと個人情報の管理は難しくなると思います。

もう一つ個人情報に関してですが、1ページに「回答していただいた皆様の個人情報等は一切表に出ることはありません。」とありますが、つまり個人情報があり、発送する時に無作為抽出した人の名前は市役所にあるということですね。これは処理しておかないといけないと思います。このような表現では、何か個人情報があるのかと思われてしまうことになるので、回答内容につきましては一切表に出ることはありません、と変更した方がよいのではないのでしょうか。

返信用封筒に名前が無いということで安心しましたが、その後の処理について、誰に送ったというデータや資料は、きちんと処理はされているのですか。

(事務局)

データや資料につきましては事務局にございますので、保存年限が過ぎれば廃棄文書ということで廃棄しております。

(会長)

ありがとうございました。非常に重要なご指摘だと思います。特に1ページの、「個人情報等は一切表に出ることはありません。」という表現、回収の際に個人情報が漏れることがないようにするという配慮の仕方。これは完璧に行わなければいけないですね。

(事務局)

1ページ目の表現のことですが、この個人情報というのは、3ページ目の(1)あなた自身についての部分で、性別・年齢・職業・世帯などについてお聞きしていますので、これらは絶対に表に出すことはないという趣旨です。

(副会長)

個人情報等は、と表現してしまうと警戒されてしまい、記入してもらえなくなる可能性もあると思います。

(事務局)

標本数も含めまして、調査の方法につきましては、これから検討させていただきたいと思います。例えば自治会に御協力いただいた場合は確かに回答数が増えると思いますが、今ある考えとしましては、完全に無作為です。特定の熱心な方のグループから選んだ回答を同じように扱うというのは、標本処理の方法としていかがなものかと思ひますし、調査方法につきましては再度検討させて下さい。

(委員)

無作為ということで教えていただきたいのですが、年齢のところを見ますと、20代~70代以上とありますが、10代とそれ未満がないですね。ということは、母集団は15万市民ではなくて、削っていますね。ですから、母集団の設定はどのように行っているのか教えていただきたい。また、10代とそれ未満が母集団にはないわけですから、15万から削った分を引くと人口はどれ程であるか教えていただきたい。無作為ですから、特定の地域で配るといふことはないと思ひますが、その時に行政改革推進課に母集団のシステムがあるということで、標本数がいくつであれば統計的にきちんとしたデータが出るのか把握しておかないといけないと思ひます。

よく無作為と言ひますと、臨床試験の時に検査を受ける人も受けることを知らないといふ、ダブルブラインド式のようなものがありますが、今回の場合には発送する側は皆それを知っていることになりませぬ。

(事務局)

統計的な問題がありますので前回と同じ年齢層をターゲットとして行いたいと思ひまして、20代以上からで設定致しました。そうしますと当然15万から10代とそれ未満の方を引けば母数は少なくなります。

(委員)

それは分かりましたが、アンケートを取る対象となる母集団は何名になるのですか。20代以上の方が対象となっているので、10代とそれ未満の方を15万から引いた人数を教えてくださいといふ意味です。分母が母集団で、標本数が分子にして何%を抽出したといふことになりますよね。1,000必要か3,000必要か、それは統計的に計算してみないと分からないはずでせぬ。

(事務局)

統計資料を確認致します。

(委員)

アンケート全体のボリュームですが、前回と同じような進め方をするといふことでの

で、無理があるのかもしれませんが、受け取った方にとっては量が多いなと感じると思います。私個人としましてはこれは大変だなと感じました。できれば A3 一枚あるいは最大でも A3 で表裏一枚、それぐらいのボリュームにしていきたい。

それから、3 ページの住まいに関するところですが、省エネ関係では戸建と集合住宅は分けて調査する必要があります。なぜかと言いますと、熱損失を考えた場合、マンションと戸建てでは全然違います。ですからこれを追加してはと思います。

設問 1 の 職業についてですが、年金生活者はどこに該当するのか分からない。

また、5 ページの車についての設問は必要なのか。メーカーのアンケートのようになっている。

設問 5 で、「あなたの住まいや周りに」とありますが、周りのイメージが掴めない。

設問 6 の緑のカーテンについての説明文で、「赤外線を反射し」とありますが、反射だけでなく、吸収もしますので、追加をしていただきたい。グリーンチェーンの内容も追加してみても良いと思います。

設問 7 ですが、前回との関係もあるかと思いますが、量が多すぎるので絞り込みが必要だと思います。

それと、家族で分担して行っている項目もあるはずですので、そのような場合はどうしたらよいか迷ってしまうのではないかと思います。

また、設問 10 の設問文で、「流山市は、今後どのようなことをすべきだと」を「流山市の政策としては、今後どのようなことをすべきだと」に変えた方が良いと思います。選択項目の 7 の「省エネルギーの普及促進」となっていますが、これは、項目 1 ~ 5 の内容（地球温暖化問題に関する情報の提供・学習の場の充実・教育の実施・市の率先的な活動・市民活動への支援）が含まれているのではないかと思いますので、何か良いまとめ方をしていきたい。

それから、是非とも検討していただきたいのが、設問 12 の環境家計簿について、環境省からや、ごく一般的にも言われていますが、家計簿をつけている方がどれ程いるのか分からない。環境家計簿という名前を変えた方が良いのでは。エコ・チェックノートと括弧書きで書いてありますが、そのようにした方が馴染みのある環境活動になるのではないかと思います。

また、10 ページの生物多様性の説明文について、二つの文の順序を逆にした方が分かりやすいと思います。設問 13 の中の設問 6) どのような身近な生きものがあるかという問いですが、例について少し専門的すぎるような気がします。

最後の 12 ページ、「地球温暖化問題を解決するために」とありますが、「地球温暖化問題や身近な環境問題を解決するために」に変えた方が良いと思いました。以上です。

(会長)

ありがとうございました。特に文言については今指摘いただいたように訂正する方が良

だと思いますので、検討をいただくとして、設問1の回答者の属性を踏まえて、クロス集計をするのですか。

(事務局)

単純集計です。クロス集計につきましては考えておりません。

(会長)

お住まいの地域のところですが、戸建てと集合住宅に加えて、居住年数を入れてみてはいかがでしょうか。是非検討をいただきたいと思います。

また、このアンケートで、主語が「あなた」の場合と「世帯」の場合があるので、問い掛け方についても統一するとともに、できるだけ一人の方で書けるものにしていただきたい。その辺のワーディングについてご検討ください。

他にございますか。

(委員)

前回の調査はいつ頃行ったのですか。

(事務局)

平成17年度に行いました。

(委員)

お住まいの地域のところで、東部や中部とありますが、回答する方自身がどの地域に該当するのか分かっているのでしょうか。

(事務局)

詳しい地域を明記したものに修正致します。

(委員)

前回のアンケートからどのような分析をして、どのようなことが分かったのか、それが提示されれば、今回のアンケートで例えばこれは生かそう、これは必要ないのでやめようというような意見が出るかと思うのですが、それがないうえに疑問に感じています。

今回のアンケートに関して言えば、自分でもアンケートを記入してみましたが、30～40分はかかりました。かなり重たい作業です。

また、テーマの順番について、非常に唐突に出てきて、市が何を行おうとしているのかわかってこない。A4でめくっていくと、全体の流れが見えてこないのので、A3でパッと見えるようにすれば分かりやすい。

設問10について、「地球温暖化を防止するために、流山市は、今後どのような事をすべきだと考えますか。」とありますが、普通に考えたらほとんど がついてしまう。3つまで選ばせるのではなく、回答数を増やしてもいいのではと思いました。また、選択項目が似たような内容になっているので、もう少し市がやろうとしていることを具体的に挙げて、その中から選択してもらおうようにすると絞れると思うのですが。

設問13の、市民活動団体の話がありますが、これは生物多様性だけでなく、他のことについても当てはまることだと思いますので、目次を変えて盛り込む必要があると思います。

(会長)

ありがとうございました。今のご指摘の中で、回答する時間が回収率に関わってくると思いました。用紙のサイズの問題も含めまして、省エネルギー行動の32項目を全て生かすのか検討する必要があると思いますし、事務局としては詳しい結果を欲しいかもしれませんが、回答のしやすさについて考えてみる必要もありますね。

他にいかがでしょうか。

(副会長)

ワーディングに関してですが、例えば7ページで、「あなたの行動に最も近い答えを1つ選んで」とあるのですが、他の設問ではこのように書かれていないので、煩わしい表現は避けた方が良いのではと思います。「最も近い答えを」と入れる理由がよく分かりません。何か意図的に入れたのでしょうか。

(7)の生物多様性の説明文ですが、これはこれで良いのでしょうか、私は専門ではありませんし、読んだだけではよく分かりません。

また、11ページの設問8)「地球温暖化等の気候変動は、生物種や生態系が適応できる速度を超え」とありますが、言葉が非常に難しくて分かりません。無作為ですから、専門でない方にも分かりやすい表現にできないのでしょうか。

設問13の1)「生物多様性という言葉を知ったことがありますか。」という質問もよく分からない。聞いたことがありますかというのは、耳で聞いたことがあるのを指すのか、読んで見たことがあるのを指すのか。どう答えてよいのか分からない。聞いたことはなかったが、このアンケートを読んで生物多様性という言葉を見たなら、これも聞いたことになるのでしょうか。

また、9ページの環境家計簿に関してですが、「どのような方法なら市に提出していただけますか。」ということですが、これも全て個人情報に関わることなので、その管理方法はどうするつもりなのでしょうか。

(会長)

ありがとうございました。このアンケートのタイトル及び調査協力願いの文面で「第2期環境行動計画策定に関する市民アンケート」、「地球温暖化対策及び生物多様性に関する市民アンケートを行うことといたしました。」となっているので、先程ご指摘がありましたけれども、目的をもう少し明確にさせていただきたいと思います。

アンケートに関しましてご指摘が多く出ましたが、これを踏まえて簡潔で分かりやすく、できるだけ多くの方に回答をいただけるような内容にアレンジをするようお願いします。

先程のスケジュールで言うと、4月末には発送をしたいとのことですので、あまり時間はありませんよね。事務局の方でアンケートに関して再度ご検討いただいて、それをまた審議会委員へお送りいただけますか。それでまた皆さんにご確認していただくというようにしていきたいと思います。このような形でいかがでしょうか。

(事務局)

沢山の意見をいただきましてありがとうございました。私共としましては、やはり前回との比較でどのように意識が変わっているのか、市としてどこにもっと力を入れていかなければならないのか、分析をしなくてはなりませんし、一方で分かりやすさとか回答に要する時間にも配慮する必要があると思います。できる限りいただいたご意見に沿えるように致します。

(会長)

やはり目的は環境行動計画を作るために、こういったご意見を皆様がお持ちか知りたいわけですね。先程のご意見で、市としてはこのようなことがしたいのですが、それに対してどのようにお考えですかという問い掛けがあると、環境行動計画との関係がかなりはっきりしてくると思います。是非ご検討ください。

部会のメンバーの方は非常にタイトなスケジュールになりますが、よろしくお願い致します。

(委員)

アンケートなどを作る場合には、何をまず聞きたいのか重要項目の順番があるのではないかと思います。計画がしっかりしていれば結果は行う前から大体予想はできます。このアンケートを実施すれば何が分かってくるかというところを抑えてから、質問を作っていた方が良いでしょう。

それから集計についてですが、回答者の層別を問うのであれば本来はクロス集計が当然です。クロス集計せず単純集計ですと層別は問う必要はありません。集計方法をどうするか、どのように統計処理をして何を導き出すかまで考えないと、新しいアンケートにはならないのではと思います。統計的なことも勉強して行わないと少し危ないような気がします。

コンサルも入ってくるとと思いますが、時間的に間に合うかどうか気になります。市役所職員の中にも統計の専門の方もいらっしゃると思いますので、意見を聞いてみるのもいいかと思います。

(会長)

ありがとうございました。統計処理の問題、集計方法の問題等、かなり具体的なご指摘をいただきました。

(委員)

付け加えますと、統計処理をした時に有意差検定もできるのですよ。例えば、20%と25%の結果が出た場合、この間に有意差があるのかどうか。有意差検定にまで踏み込んでアンケート作りをしていかないと、傾向は分かるかもしれませんが、何にもならないと思います。

(会長)

大変多くの課題を解決しないといけないと思いますが、アンケートの作成から配布、回収、分析、分析結果の使い方、本日出されたご要望等を踏まえて調査を行っていただきたいと思います。

大分具体的なご意見いただきましたので、アンケートに関しましては以上でよろしいでしょうか。事務局は大変な作業になりますが、よろしくお願いします。

それでは、本日いただいた諮問の中で、意見を求める事項として、環境行動計画、地球温暖化対策実行計画、地球温暖化対策地域推進計画、生物多様性地域戦略、以上のことにつままして、できるだけ多くの意見をくださいということを行われていましたが、答申として提出を求められているのは、第2期環境行動計画の素案ということでした。事務局からその都度、各項目について意見を求められている事項については、このような意見が欲しいという投げ掛けは審議会に対してしていただけるのですか。

(事務局)

はい。

(会長)

では、本日の二つの議題につままして終わりましたが、他に事務局からありますでしょうか。

(事務局)

では、その他としまして、先程部会が設置されましたことから、今後部会の日程を調整

しながら次回の審議会の日程を決めていきたいと思ひます。新年度の予算が4月以降に入りますが、また、コンサルの決定が4月末になりますので、それを踏まえまして審議会を4月末か5月初旬に開催致します。今回のアンケートの作成をしながら決めていきたいと思ひますので、決定次第、皆様には通知致します。

先程、アンケートの進め方について会長よりお話がありましたとおり、本日いただいた意見をもう一度事務局で検討・修正し、委員の皆様へ配布をしまして調整を図り、4月末には実施したいと考えております。

また、前回審議会の会議録をお配りしておりますが、何か訂正箇所がございましたら後程お伝えいただけますでしょうか。

(会長)

他に何かご意見やご質問がある方はいらっしゃいますか。

ないようですので、事務局にお返し致します。

(事務局)

長時間に渡りご審議いただき、ありがとうございました。大変お疲れ様でした。

これを持ちまして、平成20年度第2回環境審議会を閉会致します。

<閉会>